



名所旧跡を訪ね歩いた「てくてく見て歩き」は、今号より趣きを変え、

“ものづくり”にスポットを当てて、ご紹介することになりました。



さて、そのトップバッターとして、甚目寺町の地場産業である「刷毛」を紹介したいと思います。大字西今宿にある「刷毛工房はけたけ」さんにお邪魔しました。

故吉川竹治さんが「吉川刷毛ブラシ工業」として創業されてから51年目。長男で愛知刷毛刷子商工業協同組合理事長の元啓さんが、5年前に「はけたけ」と父の名を入れた屋号に変更されました。この一言を聞いた時、父の背中をずっと見て育ち、無言の父からいかに多くの事を学ばれたのかが十二分に伝わってきました。



以前は組合員が120社はあったそうですが、今は48社へ減少。また刷毛の原料も日本の物から中国の山羊、豚、馬の毛がほとんどを占める現状とか。

しかし、昭和47年製の機械は時代の流転、変化を知ってか知らずか元気にしっかりと動いていました。

刷毛の用途は多種多様で、ペンキ用、料理用、表具用、染物用、工業用等、それぞれ大きさや形が異なります。



仕上げ担当の先代の奥さんは、21歳から70歳の現在まで根気のいるこのお仕事を産業で続けているとのこと。全く頭の下がる思いです。



心を込めてできあがった製品を手にとって、やはり手作りの心、温かさ、ぬくもりに振れる喜びをひしひしと感じると共に、大切に使わなければ刷毛に申し訳ないと自分に言い聞かせました。

甚目寺町民として地場産業の一つが、国内生産量の約6割を占め、日本一（昭和48年以来）ということ誇るべきでしょうネ。自身を持って！

なお、事前に申し込めば、刷毛会館で刷毛作りの工程が学べます。

刷毛の製造工程や製品等については、「刷毛工房はけたけ」のホームページをご覧ください。

ホームページ

<http://www2.ocn.ne.jp/~haketake/>

